

# 有害性評価書

No. 36 (有害性)

## オルトーニトロアニソール (*o*-Nitroanisole)

### 目次

本文	1
参考1 有害性総合評価表	3
参考2 有害性評価書	6

2009年6月

厚生労働省

化学物質による労働者の健康障害防止に係るリスク評価検討会

## 1 物理的性状等

### (1) 化学物質の基本情報

名 称：オルト-ニトロアニソール

別 名：2-ニトロアニソール、1-Methoxy-2-nitro-benzene

化学式： $\text{NO}_2\text{C}_6\text{H}_4\text{OCH}_3$

分子 量：153.14

CAS 番号：91-23-6

労働安全衛生法施行令別表9(名称を通知すべき有害物)第124号

### (2) 物理的・化学的性状

外観：無色～黄～赤色の液体

凝固点：データなし

比重（水=1）：1.25

引火点：124℃

沸 点：277℃

発火点：464℃

初留点：データなし

爆発限界（容量%）：1.04～66vol%、

蒸留範囲：データなし

溶解性（水）： 溶けない（20℃）

蒸気圧：0.004 kPa（30℃）

オクタノール/水分配係数 log Pow:1.73

蒸気密度（空気=1）：5.29

換算係数：

1ppm=6.26mg/m<sup>3</sup>（25℃）

融 点：10℃

1mg/m<sup>3</sup>=0.16ppm（25℃）

### (3) 生産・輸入量、使用量、用途

生産量：2006年 800ト（推定）

輸入量：情報なし

用 途：有機合成、染料、医薬品の中間体、ジアニシジン原料。

## 2 有害性評価（詳細を参考1、参考2に添付）

### (1) 発がん性

○発がん性：ヒトに対する発がん性が疑われる

根拠：IARC 2B（参考：EU 2）

○閾値の有無の判断：閾値なし

根拠：遺伝毒性試験において、ニトロアニソールが複数の遺伝毒性を有していることが報告されていること、ニトロアニソールのプロモーター作用のように発がんのメカニズムを示す報告もないことより閾値なしと考える。

○リスクレベルの算出

閾値がないので、スロープファクターの検索を行った。US EPA IRIS Cancer Unit Risk Values, WHO “Air Quality Guidelines for Europe”, California EPA, Canada EPAで検索を行ったが、オルト-ニトロアニソールのスロープファクターに関する記載は認められなかった。よって、リスクレベル $10^{-4}$ に対応するばく露濃度RL( $10^{-4}$ )の算出はできない。

(2) 発がん性以外の有害性

- 急性毒性：あり
- 生殖・発生毒性：あり

(3) 許容濃度等

- ACGIH：設定なし
- 日本産業衛生学会：設定なし

(4) 評価値

- 一次評価値：設定せず
- 二次評価値：0.01 ppm (0.062 mg/m<sup>3</sup>)  
(オルト-アニシジン ACGIH の TLV-TWA (0.1 ppm) の  
1/10)